

学科目標と授業時間数一覧

年度	学科名	学年	担任名					
令和6年度	建築インテリア学科	1年	松尾 優子					
学科概略	建築設計や施工管理者として活躍できる技能や専門知識を身につける。建築に関する法規や一般構造の理解、家具デザインの基礎やデザイナーの資質などについて総合的に学ぶ。単に建築意匠や空間の装飾にとどまらず、総合的な演出やライフスタイルそのものを提案できる設計力、施工現場にて作り上げていく管理能力などを兼ね備えた人材の育成を目指す。							
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・建築、インテリアの基礎知識(専門用語・関連法規等)の習得 ・建築、インテリアの基礎技術(製図・モデリング・デッサン・CAD等)の習得 ・日常的なデザインに対する取り組み方、考え方、姿勢の確立 ・デザイナー的発想方法、思考法、ものの見方の確立 ・人間力(自立・マナー・優しさと思いやり・マネージメント能力)の向上 ・プレゼン能力の習得 							
目標へ対しての具体的取組	<ol style="list-style-type: none"> 1)モノを創る喜びや大変さを体感 2)VTRや原物サンプルによるヴィジュアル学習 3)図面の持つ役割や特性、専門用語の認識を反復させて指導していく 4)校外研修・海外研修などでの総合的体験学習 5)個人に合った個別指導 							
授業時間数及び区分								
科目名	担当教員		授業時間数		年間授業時間数	授業区分①	授業区分②	授業方法
			前期	後期				
1 設計製図 I	松尾 優子	常勤	91	126	217	必修	専門	実習
2 CAD実習 I	石元 優	常勤	52	72	124	必修	専門	実習
3 住居学	松山 和雄	非常勤	26	36	62	必修	専門	講義
4 インテリアコーディネート	石元 優	常勤	39	54	93	必修	専門	演習
5 モデリング	葛岡 龍樹	非常勤	26	36	62	必修	専門	実習
6 パースペクティブ	中平 順子	常勤	26	36	62	必修	専門	実習
7 施工実務 I	濱口 一平	非常勤	26	36	62	必修	専門	講義
8 ベーシックデザイン	桑名 史	常勤	26	36	62	必修	専門	実習
9 デザイン実習 I	葛岡 龍樹	非常勤	26	36	62	必修	専門	実習
10 デザイン研究	山中 貴記	非常勤	26	36	62	必修	専門	実習
11 色彩設計	大倉美知子	非常勤	26	36	62	必修	専門	講義
12 福祉住環境学	笹岡 和泉	非常勤	26	36	62	必修	専門	講義
13 ビジネスPC実習	石元 優	常勤	13	18	31	必修	一般	実習
14 修了制作	石元 優	常勤	26	36	62	必修	専門	演習
15								
16								
17								
18								
19								
20								
合計時間数			455	1715	1085			

令和6年度 シラバス

授業科目	設計製図 I		単位/時間	217 h
開講学科等	建築インテリア学科 1年		担当教員	松尾 優子
授業の目的・テーマ	図面の持つ役割、機能を理解することを学ぶ。作成の約束事を学ぶ。/各製図用具の取り扱いを学ぶ。設計意図を的確に表現する技能を学ぶ。/建築の設計に係わる知識や設計手順を学び、建築設計計画を修得する。/各施設の設計図書の作成、工事予算書の作成等に関し、企画等を行う上で必要とする専門知識を学ぶ。			
授業の到達目標	建築用語・各部材の理解。/線や記号の使い分け。/正確かつ合理的に図面を完成させる。/表現力を身につける。			
授業 の 計画	1	概要 図面と製図 製図のルール 線引き練習	26	設計製図 RC 2階建住宅 提出
	2	概要 図面と製図 製図の基本 建築製図の種類	27	設計製図 自由設計課題説明 企画
	3	製図 木造建築の描き方 概要 基本知識	28	設計製図 自由設計 企画 エスキース
	4	製図 木造建築の描き方 概要 配置図	29	設計製図 自由設計 エスキース チェック
	5	製図 木造建築の描き方 1階平面図	30	設計製図 自由設計 平面図 断面図 立面図
	6	製図 木造建築の描き方 2階平面図	31	設計製図 自由設計 平面図 断面図 立面図
	7	製図 木造建築の描き方 断面図 A-A	32	
	8	製図 木造建築の描き方 断面図 B-B	33	
	9	製図 木造建築の描き方 立面図 北 東	34	
	10	製図 木造建築の描き方 立面図 南 西	35	
	11	製図 木造建築の描き方 かなばかり図	36	
	12	製図 木造建築の描き方 かなばかり図	37	
	13	製図 木造建築の描き方 かなばかり図	38	
	14	設計製図 木造 2階建住宅課題説明 エスキース	39	
	15	設計製図 木造 2階建住宅 エスキース チェック	40	
	16	設計製図 木造 2階建住宅	41	
	17	設計製図 木造 2階建住宅	42	
	18	設計製図 木造 2階建住宅	43	
	19	設計製図 木造 2階建住宅 提出	44	
	20	製図 RC建築の描き方 概要基本知識	45	
	21	設計製図 RC 2階建住宅課題説明エスキース	46	
	22	設計製図 RC 2階建住宅エスキース	47	
	23	設計製図 RC 2階建住宅エスキース チェック	48	
	24	設計製図 RC 2階建住宅	49	
	25	設計製図 RC 2階建住宅	50	
授業の方法	実習			
テキスト/参考文献	初めての建築製図、プリント			
評価の方法や基準	<ul style="list-style-type: none"> ・提出された課題作品（正確さ、美しさ、発想力、表現力、完成度） ・課題への取り組み（努力、時間、計画性、授業態度、情報収集力） 			
実務経験のある教員による授業科目の場合、右欄に○を入れ、実務経験と実務経験の活かし方を記載する				○
実務経験	建築設計事務所にて設計士として勤務。			
実務経験の活かし方	建築設計の実務で養ってきた知識や技術、ノウハウを学生に還元していく。			
履修上の注意事項	特になし			

令和6年度 シラバス

授業科目	CAD実習 I	単位/時間	124 h	
開講学科等	建築インテリア学科 1年	担当教員	石元 優	
授業の目的・テーマ	コンピュータでの設計業務が行えるよう設計支援ソフト(CAD)の基本的操作を習得する。/CADソフト使って木造住宅の設計・製図を学ぶ。			
授業の到達目標	CADソフトによる二次元製図の操作方法、操作手順の習得。/基本的なコンピュータの操作を身につけ、最終的にはコンピュータによる図面の作成を目的とする。/CADソフト使って一般的な木造住宅の設計・製図(一般図から矩計図まで)を習得する。			
授業 の 計 画	1	CADソフトの作図機能・説明(1)	26	木造立面図課題(3)
	2	CADソフトの作図機能・説明(2)	27	木造矩計図課題(1)
	3	CADソフトの作図機能トレーニング課題(1)	28	木造矩計図課題(2)
	4	CADソフトの作図機能トレーニング課題(2)	29	木造矩計図課題(3)
	5	CADソフトの編集機能・説明(1)	30	木造矩計図課題(4)
	6	CADソフトの編集機能・説明(2)	31	木造矩計図課題(5)
	7	CADソフトの編集機能トレーニング課題(1)	32	
	8	CADソフトの編集機能トレーニング課題(2)	33	
	9	CADトレーニング課題(1)	34	
	10	CADトレーニング課題(2)	35	
	11	CADトレーニング課題(3)	36	
	12	CADトレーニング課題(4)	37	
	13	CADトレーニング課題(5) 夏休課題説明(木造住宅の設計)	38	
	14	木造配置図課題(1)	39	
	15	木造配置図課題(2)	40	
	16	木造平面図課題(1)	41	
	17	木造平面図課題(2)	42	
	18	木造平面図課題(3)	43	
	19	木造平面図課題(4)	44	
	20	木造断面図課題(1)	45	
	21	木造断面図課題(2)	46	
	22	木造断面図課題(3)	47	
	23	木造断面図課題(4)	48	
	24	木造立面図課題(1)	49	
	25	木造立面図課題(2)	50	
授業の方法	実習			
テキスト/参考文献	教員によるマニュアル配布			
評価の方法や基準	基本的なコンピューター用語の理解、ハードの取扱い、ソフトの基本的操作の習得具合を評価基準とする。CADを使っての基本的な設計製図の習得具合を評価基準とする。また、課題提出状況、出席状況を加味し総合評価を判断する。			
実務経験のある教員による授業科目の場合、右欄に○を入れ、実務経験と実務経験の活かし方を記載する			○	
実務経験	ハウスメーカーにて設計担当として勤務。			
実務経験の活かし方	業界で養った実務技術を、学生に還元していく。また、業界での業務フローや担当の役割りなど、専門科目以外の部分でも知識を与えていく。			
履修上の注意事項	保存用の記憶媒体は、磁気によりデータを消失してしまう恐れがあるため、磁気には近づけないように。			

令和6年度 シラバス

授業科目	住居学		単位/時間	62h
開講学科等	建築インテリア学科1年		担当教員	松山 和雄
授業の目的・テーマ	住まい歴史や変遷を学び、快適安全をテーマに今後の住居のあり方を学習する。/人間生活の基礎である住まいについてその歴史、現状、暮らしと住まいのあり方、環境等について概説し、住宅計画と設計の基礎知識を学ぶ。			
授業の到達目標	人間行動、生活、住居、住宅、集合住宅をキーワードに快適で安全な住宅計画ができるようになる。			
授業の計画	1	はじめに 住居学概要	26	確認テスト
	2	住宅とは	27	住まいの計画 居間
	3	いろいろな住宅	28	住まいの計画 寝室
	4	まとめー小テスト	29	住まいの計画 風呂
	5	住まいの歴史 寝殿造りまで	30	住まいの計画 便所
	6	住まいの歴史 寝殿造り	31	学年末テスト
	7	住まいの歴史 寝殿造り	32	
	8	住まいの歴史 寝殿造り 小テスト	33	
	9	住まいの歴史 書院造り	34	
	10	住まいの歴史 書院造り	35	
	11	住まいの歴史 書院造り	36	
	12	住まいの歴史 書院造り	37	
	13	確認テスト	38	
	14	住まいの歴史 数寄屋造り	39	
	15	住まいの歴史 数寄屋造り	40	
	16	住まいの歴史 数寄屋造り	41	
	17	住まいの歴史 数寄屋造り 小テスト	42	
	18	住まいの歴史 民家	43	
	19	住まいの歴史 民家	44	
	20	住まいの歴史 民家 小テスト	45	
	21	住まいの歴史 現代	46	
	22	住まいの歴史 現代	47	
	23	住まいの歴史 現代	48	
	24	住まいの計画 玄関	49	
	25	住まいの計画 台所・食堂	50	
授業の方法	講義			
テキスト/参考文献	プリント、スライド等			
評価の方法や基準	小テスト・確認テスト・学年末テスト等にて評価。			
実務経験のある教員による授業科目の場合、右欄に○を入れ、実務経験と実務経験の活かし方を記載する				
実務経験				
実務経験の活かし方				
履修上の注意事項	特になし			

令和6年度 シラバス

授業科目	インテリアコーディネート		単位/時間	93h
開講学科等	建築インテリア学科1年		担当教員	石元 優
授業の目的・テーマ	インテリア計画からプレゼンテーションまでを含めて立体的にトータルなモノ作りを理解し問題意識を持って、実践的なインテリアプランを作り上げ、演出していく。/店舗スペースの設計や住空間のプランなどを計画していく。			
授業の到達目標	ただ単に物を運び、配置をしたり、飾るといったテクニックではなく、住み手の暮らしを見直し、よりよい生活空間を提案できるようになる。/道具と材料の理解。/インテリアプレゼンテーションボードが制作できるようになる。/自分の提案を第三者に的確にプレゼンテーションできる。			
授業の計画	1	はじめに インテリアコーディネート	26	同上
	2	イメージコラージュ1 課題説明 素材を選択する	27	同上
	3	イメージコラージュ2 カット&ペースト	28	同上
	4	イメージコラージュ3 レイアウト	29	同上
	5	グリッド1 課題説明 黄金分割 テーマ	30	同上
	6	グリッド2 分割 インキング	31	RC造2階建住宅のインテリアコーディネート 発表会
	7	グリッド3 カラーリング 色鉛筆の使い方	32	
	8	グリッド4 プレゼンテーション 発表会	33	
	9	サンプルボード1 イメージ	34	
	10	サンプルボード2 床 壁 天井	35	
	11	サンプルボード3 家具	36	
	12	サンプルボード4 照明	37	
	13	サンプルボード5 ウィンドトリートメント	38	
	14	サンプルボード6 グリーンインテリア アートワーク	39	
	15	ワンルームマンションのインテリアコーディネート	40	
	16	同上	41	
	17	同上	42	
	18	同上	43	
	19	各学生オリジナル家具デザイン、プラン	44	
	20	同上	45	
	21	同上	46	
	22	プレゼンテーション 発表会	47	
	23	RC造2階建住宅のインテリアコーディネート	48	
	24	同上	49	
	25	同上	50	
授業の方法	実習			
テキスト/参考文献	教員による資料配布			
評価の方法や基準	提出課題にて評価をする。発表会のプレゼンテーションを評価する。			
実務経験のある教員による授業科目の場合、右欄に○を入れ、実務経験と実務経験の活かし方を記載する				○
実務経験	ハウスメーカーにて設計担当として勤務。			
実務経験の活かし方	業界で養った実務技術を、学生に還元していく。また、業界での業務フローや担当の役割りなど、専門科目以外の部分でも知識を与えていく。			
履修上の注意事項	特になし			

令和6年度 シラバス

授業科目	モデリング		単位/時間	62h
開講学科等	建築インテリア学科1年		担当教員	葛岡 龍樹
授業の目的・テーマ	建築模型製作を通して ①建築図面を読む力、②2Dから3Dにする空間的思考力、③模型製作の技術力を習得する。			
授業の到達目標	建築図面が読める。製作目的に応じた材料が選べる、道具を使いこなせる。早く模型が作れる。美しい模型が作れる。			
授業の計画	1	図面の読み方/模型の作り方	26	同上
	2	A住宅プレゼンテーション模型製作 (S=1/100)	27	自主設計課題模型製作
	3	同上	28	同上
	4	同上	29	同上
	5	同上	30	同上
	6	同上	31	同上
	7	同上	32	
	8	B住宅模型製作 (S=1/30)	33	
	9	同上	34	
	10	同上	35	
	11	同上	36	
	12	同上	37	
	13	同上	38	
	14	C住宅プレゼンテーション模型製作 (S=1/100)	39	
	15	同上	40	
	16	同上	41	
	17	同上	42	
	18	同上	43	
	19	同上	44	
	20	D住宅模型製作 (S=1/30)	45	
	21	同上	46	
	22	同上	47	
	23	同上	48	
	24	同上	49	
	25	同上	50	
授業の方法	実習			
テキスト/参考文献	各建築の設計図書			
評価の方法や基準	建築模型の基礎知識の理解度・模型の完成度から総合的評価で判断する。			
実務経験のある教員による授業科目の場合、右欄に○を入れ、実務経験と実務経験の活かし方を記載する				○
実務経験	建築設計事務所に勤務し独立			
実務経験の活かし方	建築設計におけるクライアントへのプレゼンテーションの技術を授業に活かす。(模型製作やプレゼンテーション書類の作成等)			
履修上の注意事項	実務レベルで通用する模型製作には①図面が理解できる、②早く作れる、③綺麗に作れることが大切です。実務レベルで通用する模型製作をめざす。			

令和6年度 シラバス

授業科目	パースペクティブ	単位/時間	62h
開講学科等	建築インテリア学科1年	担当教員	中平 順子
授業の目的・テーマ	遠近法、消点法等を学び平面上に立体感のある空間を表現する方法を学ぶ。平面図、立面図、断面図、展開図等を合成し、立体的な空間に変換する手法を学ぶ。建築室内空間、および外部建築の完成を相手に伝える手段として描く。		
授業の到達目標	家具やインテリア、建築の内外観に渡り透視図を学ぶ。設計図書を読み込み立体空間に変換できるようになる。各種画材の特性を理解し使いこなせる技術を習得する。		
授業の計画	1	3次元における形の見え方基本1立方体	26 制作建築物のパース
	2	3次元における形の見え方基本2球体	27 制作建築物のパース
	3	3次元における形の見え方基本3円錐	28 制作建築物のパース
	4	形のとらえ方、描き方 演習課題1	29 制作建築物のパース
	5	形のとらえ方、描き方 演習課題2	30 制作建築物のパース
	6	形のとらえ方、描き方 演習課題3	31 制作建築物のパース
	7	形のとらえ方、描き方 演習課題4	32
	8	形のとらえ方、描き方 演習課題5	33
	9	形に着色をする 演習課題1 色鉛筆	34
	10	形に着色をする 演習課題2 マーカー	35
	11	形に着色をする 演習課題3 水彩	36
	12	形に着色をする 演習課題4 水彩	37
	13	描き方 透視図法/物体/内観/外観	38
	14	描き方 透視図法/物体/内観/外観	39
	15	描き方 透視図法/物体/内観/外観	40
	16	校外建築物スケッチ	41
	17	校外建築物スケッチ	42
	18	RC二階建住宅 外観透視図	43
	19	RC二階建住宅 外観透視図	44
	20	RC二階建住宅 内観透視図	45
	21	RC二階建住宅 内観透視図	46
	22	設計製図における自由設計の外観スケッチ	47
	23	設計製図における自由設計の内観スケッチ	48
	24	設計製図における自由設計の外観透視図	49
	25	設計製図1における自由設計の内観透視図	50
授業の方法	実習形式		
テキスト/参考文献	パースプリント資料		
評価の方法や基準	出席率、授業態度、実習課題		
実務経験のある教員による授業科目の場合、右欄に○を入れ、実務経験と実務経験の活かし方を記載する			○
実務経験	県内情報誌にて連載経験あり。 様々な印刷物のデザインとイラスト担当の経験あり。 ロゴマークやキャラクター制作経験あり。		
実務経験の活かし方	デザインを考える上でのアイデアやヒントの見つけ方や、技法や制作方法などを学生に教えていくことができる。		
履修上の注意事項	特に無し		

令和6年度 シラバス

授業科目	施工実務 I		単位/時間	62 h
開講学科等	建築インテリア学科 1年		担当教員	濱口 一平
授業の目的・テーマ	<ul style="list-style-type: none"> ・ 建築生産に関係する事項を全般的に取り上げる。 ・ 建築生産を取り巻く制度、建築生産現場の実態、施工計画・施工管理の手法、各工事の実施方法の概要について授業していく。 			
授業の到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ 建築に対しての生産の観点から思考できるようになるための資質を育む。 ・ さまざまな知識を集積させ、建築の生産現場で必要となる感性や判断力の基礎となるものを身に付けさせる。 ・ 各種工事の標準的な実施方法を習得させる。 			
授業の計画	1	建築施工業務の内容	26	鉄筋工事の流れ
	2	建築生産の一連の流れ	27	同上
	3	敷地・地盤の調査と測量	28	鉄筋コンクリート工事の流れ
	4	測量機による実習	29	同上
	5	仮設工事の内容	30	同上
	6	土工事と地業・基礎工事	31	建築施工業務のまとめ
	7	主体工事（木工事）	32	
	8	主体工事（鉄骨工事）	33	
	9	主体工事（鉄筋コンクリート工事）	34	
	10	主体工事（その他コンクリート工事）	35	
	11	仕上工事（防水工事）	36	
	12	仕上工事（屋根工事）	37	
	13	仕上工事（造作工事）	38	
	14	仕上工事（左官工事）	39	
	15	仕上工事（タイル・石工事）	40	
	16	仕上工事（金属工事）	41	
	17	仕上工事（建具・硝子工事）	42	
	18	仕上工事（塗装工事）	43	
	19	仕上工事（内装工事）	44	
	20	仕上工事（内装工事）	45	
	21	仕様と積算	46	
	22	施工方式と建築業務	47	
	23	木造建築工事の流れ	48	
	24	同上	49	
	25	同上	50	
授業の方法	講義			
テキスト/参考文献	参考資料プリント等 建築施工入門 実教出版			
評価の方法や基準	授業態度、試験結果			
実務経験のある教員による授業科目の場合、右欄に○を入れ、実務経験と実務経験の活かし方を記載する				○
実務経験	建築設計・監理業務20年間（住宅・公共施設・福祉施設等）			
実務経験の活かし方	一級建築士の意匠系建築設計実務者としての経験や知識を元に、実際に建築設計をおこなう際に必要不可欠となる建築法規の基礎を習得させる。			
履修上の注意事項	時間が限られているのでしっかり集中して学習してもらいたい。			

令和6年度 シラバス

授業科目	ベーシックデザイン	単位/時間	62 h
開講学科等	建築インテリア学科1年	担当教員	桑名 史
授業の目的・テーマ	基本的な、物のあらゆる表現方法や画材の使い方を学ぶ。/平面だけでなく、立体的な表現方法を学び、3次元での形の見え方について学習する。/イラストレーター、フォトショップの基本ツールを学び、効果的なプレゼンボードの作り方を学習する。		
授業の到達目標	目的に合わせた伝達表現テクニックの習得。/簡潔で見やすいプレゼンボードを作れるようになる。		
授業 の 計 画	1	イメージトレーニング、バランス感覚、空間認識トレーニング	26 同上
	2	同上	27 プレゼンボード製作練習課題
	3	同上	28 同上
	4	色鉛筆による技法、水彩表現方法を学ぶ	29 同上
	5	同上	30 同上
	6	同上	31 同上
	7	様々な素材表現 (立方体)	32
	8	同上	33
	9	物体考察課題	34
	10	[物体をあらゆる角度から観察、想像、描く]	35
	11	同上	36
	12	同上	37
	13	イメージコラージュ (パネル水張り練習含む)	38
	14	同上	39
	15	同上	40
	16	イラストレーター基本操作 (ツール、ペジエなど)	41
	17	同上	42
	18	同上	43
	19	同上	44
	20	フォトショップ基本操作 (画像修正、調整、合成)	45
	21	同上	46
	22	同上	47
	23	同上	48
	24	イラストレーター、フォトショップ応用課題 (レイアウト)	49
	25	同上	50
授業の方法	実習		
テキスト/参考文献	そのつど、プリント		
評価の方法や基準	提出課題、授業態度、出席時数		
実務経験のある教員による授業科目の場合、右欄に○を入れ、実務経験と実務経験の活かし方を記載する			
実務経験			
実務経験の活かし方			
履修上の注意事項	特になし		

令和6年度 シラバス

授業科目	デザイン実習 I		単位/時間	62h
開講学科等	建築インテリア学科1年		担当教員	葛岡 龍樹
授業の目的・テーマ	木造軸組み模型キット製作実習を通して、木造建築における部材の名称や役割を理解する。/家具の持つ役割から、基礎的な知識を学びデザインに生かしていく。/家具の基本製図、三面図の作成。パースの作成。/オリジナルデザインの提案。			
授業の到達目標	木造住宅の構造と部材名、役割の理解。/家具構造と材料の理解。/基本的な三面図の理解、作図力の向上。/デザインコンペ出品・入賞。			
授業の計画	1	木造軸組み模型の製作	26	プレボード制作
	2	同上	27	インテリア平面計画
	3	同上	28	展開図
	4	同上	29	配置モデル制作
	5	同上	30	配置モデル制作
	6	同上	31	プレゼンテーション
	7	同上	32	
	8	同上	33	
	9	同上	34	
	10	同上	35	
	11	同上	36	
	12	同上	37	
	13	同上	38	
	14	家具のデザインについて	39	
	15	家具の構造①	40	
	16	家具の構造②	41	
	17	家具のペーパーモデル制作	42	
	18	三面図トレース	43	
	19	実測演習①【ベンチ三面図】	44	
	20	実測演習②【ベンチ三面図】	45	
	21	オリジナル家具の提案・課題説明	46	
	22	エスキース	47	
	23	ペーパーモデル制作	48	
	24	三面図	49	
	25	プレゼンボード制作	50	
授業の方法	実習			
テキスト/参考文献	インテリア設計士テキスト			
評価の方法や基準	木造住宅軸組み模型の完成精度及び、構造・部材名・役割の理解度など。 家具構造についての理解度、模型・図面の完成度など、提案における企画力、表現力にて総合評価する。			
実務経験のある教員による授業科目の場合、右欄に○を入れ、実務経験と実務経験の活かし方を記載する				○
実務経験	建築設計事務所に勤務し独立			
実務経験の活かし方	建築設計におけるクライアントへのプレゼンテーションの技術を授業に活かす。(模型製作やプレゼンテーション書類の作成等)			
履修上の注意事項	特になし			

令和6年度 シラバス

授業科目	デザイン研究		単位/時間	62 h
開講学科等	建築インテリア学科1年		担当教員	山中 貴記
授業の目的・テーマ	人と家具・建築との関係を学習し、設計デザインにかかしていく。人間工学を理解し、家具デザイン・建築デザインの知識を身につける。ディテールを理解し、家具作品・建築作品を完成させていく。インテリア計画の知識の習得。			
授業の到達目標	家具・建築のディテールを学習し、家具模型・建築模型の制作をする。各自オリジナルの家具・インテリア・建築デザインができるようになる。いろんなデザイナー・建築家のデザインを学習し、各自の企画計画・設計・デザインに活かしていく。			
授業の計画	1	家具・インテリア・建築デザインの説明	26	オリジナルの建築デザイン制作1
	2	デザイナーズチェア説明、制作1	27	オリジナルの建築デザイン制作1
	3	デザイナーズチェア説明、制作1	28	修了制作への応用実習
	4	デザイナーズチェア説明、制作2	29	修了制作への応用実習
	5	デザイナーズチェア説明、制作2	30	修了制作への応用実習
	6	デザイナーズチェア説明、制作3	31	修了制作への応用実習
	7	デザイナーズチェア説明、制作3	32	
	8	デザイナーズチェア説明、制作4	33	
	9	デザイナーズチェア説明、制作4	34	
	10	デザイナーズチェア説明、制作5	35	
	11	デザイナーズチェア説明、制作5	36	
	12	オリジナルのデザインチェア制作1	37	
	13	オリジナルのデザインチェア制作1	38	
	14	有名建築家デザイン建築説明、制作1	39	
	15	有名建築家デザイン建築説明、制作1	40	
	16	有名建築家デザイン建築説明、制作2	41	
	17	有名建築家デザイン建築説明、制作2	42	
	18	有名建築家デザイン建築説明、制作3	43	
	19	有名建築家デザイン建築説明、制作3	44	
	20	有名建築家デザイン建築説明、制作4	45	
	21	有名建築家デザイン建築説明、制作4	46	
	22	有名建築家デザイン建築説明、制作5	47	
	23	有名建築家デザイン建築説明、制作5	48	
	24	オリジナルの建築デザイン制作1	49	
	25	オリジナルの建築デザイン制作1	50	
授業の方法	実習形式			
テキスト/参考文献	プリント資料			
評価の方法や基準	出席率、授業態度、実習課題			
実務経験のある教員による授業科目の場合、右欄に○を入れ、実務経験と実務経験の活かし方を記載する				○
実務経験	インテリア事務所にて図面作成、パース制作等。自営にてパース制作業務。			
実務経験の活かし方	実務の現場で必要とされている内容に即した作図法やパース表現を効率的かつ直接的に指導。			
履修上の注意事項	特に無し			

令和6年度 シラバス

授業科目	色彩設計		単位／時間	62h
開講学科等	建築インテリア学科1年		担当教員	大倉 美知子
授業の目的・テーマ	高齢者や乳幼児の色覚にも配慮した色彩設計が習得できる、日本カラーコーディネーター協会（以下J-color）「ライフケアカラー検定」3・2級にチャレンジし、高齢化社会で活躍できるデザイナーを養成する。／文部科学省が後援するAFT「色彩能力検定」3級にチャレンジし、色彩の基礎知識を修得させる。／色彩の基礎から学習し、「適色適所」建築インテリアに応用する知識をつける。			
授業の到達目標	J-colorライフケアカラー検定2級に合格させ、「ライフケアカラーアドバイザー」の称号を取得させる。／色彩能力検定3級に合格させ、「3級色彩コーディネーター」の称号を取得させる。／1年次における専門学校生としての自覚を持ち、卒業後の社会人イメージを目標に、夢をかなえる努力をする人間を育成する。／色彩の影響力を認識し、社会貢献できる色彩設計能力を習得させる。			
授業の計画	1	ガイダンス・自己紹介・補色実験	26	ライフケアカラー検定2級 1
	2	PCCS表色系 色相環	27	ライフケアカラー検定2級 2
	3	PCCS表色系 トーン	28	ライフケアカラー検定2級 3
	4	PCCS表色系 まとめ	29	ライフケアカラー検定2級 模擬試験1
	5	JIS表色系・慣用色名	30	ライフケアカラー検定2級 模擬試験2
	6	色彩心理1	31	マンセル表色系
	7	色彩心理2	32	
	8	配色1	33	
	9	配色2	34	
	10	ライフケアカラー3級1	35	
	11	ライフケアカラー3級2	36	
	12	ライフケアカラー3級3	37	
	13	ライフケアカラー3級模擬試験	38	
	14	慣用色名テスト・前期復習	39	
	15	光と色1 光	40	
	16	光と色2 照明	41	
	17	光と色3 視覚	42	
	18	インテリア色彩	43	
	19	ファッション色彩	44	
	20	環境色彩	45	
	21	色彩検定3級 模擬試験1	46	
	22	色彩検定3級 模擬試験2	47	
	23	色彩検定3級 模擬試験3	48	
	24	色彩検定3級 模擬試験4	49	
	25	色彩検定解説・色彩設計事例紹介	50	
授業の方法	講義			
テキスト/参考文献	J-color公式テキスト3・2級・公式問題集／AFT色彩検定テキスト3級・AFT色彩検定過去問題集・配色カード			
評価の方法や基準	小テスト・模擬試験・課題・授業態度の総合評価			
実務経験のある教員による授業科目の場合、右欄に○を入れ、実務経験と実務経験の活かし方を記載する				○
実務経験	1999年にカラーオフィスPERSONALを個人開業（四国初）、現在に至る。高知市のランドマーク「鏡川大橋」の色彩設計をはじめ、企業や個人住宅のインテリアなどの色彩設計。 現在；高知県「屋外広告物審議会」会長、高知市「景観審議会」副会長。			
実務経験の活かし方	色彩検定協会やJ-colorの認定講師としての検定指導と、行政の環境色彩指針やクライアントの要望を適色適所で色彩設計できるよう指導。			
履修上の注意事項	毎回の小範囲の内容を次回までに体得しておくこと。			

令和6年度 シラバス

授業科目	福祉住環境学		単位/時間	62h
開講学科等	建築インテリア学科1年		担当教員	笹岡 和泉
授業の目的・テーマ	<ul style="list-style-type: none"> ・住居の内外における物理的環境を学び、その中で暮らす人たちが肉体的にも精神的にも健全で、快適に満足して住めるような住居を計画できる知識を学ぶ。 ・福祉住環境やエコロジー住宅を学習し、今後の住居のあり方を学ぶ。 			
授業の到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・福祉住環境コーディネーター3級検定合格レベルの住環境知識を身に付ける。 ・快適で安全な住宅計画ができるようになる。 			
授業の計画	1	住居の外部環境	26	ユニバーサルデザイン
	2	わが国の各地の気候	27	エコロジー住宅
	3	明るい住居	28	エコロジー住宅
	4	暖かい住居	29	エコロジー住宅
	5	涼しい住居 小テスト	30	見学会 レポート
	6	清浄な空気	31	学期末テスト
	7	湿気のない空気	32	
	8	静かな住居	33	
	9	清潔な住所	34	
	10	安全な住居	35	
	11	福祉住環境設備 段差・手すり・スペース	36	
	12	福祉住環境設備 建具・色彩	37	
	13	福祉住環境設備 非常時・維持管理	38	
	14	学期末テスト	39	
	15	アプローチ・外構計画	40	
	16	福祉住環境設備 玄関	41	
	17	福祉住環境設備 廊下	42	
	18	福祉住環境設備 階段	43	
	19	福祉住環境設備 トイレ	44	
	20	福祉住環境設備 洗面・脱衣所	45	
	21	福祉住環境設備 浴室	46	
	22	福祉住環境設備 キッチン	47	
	23	福祉住環境設備 寝室	48	
	24	福祉住環境設備 家具	49	
	25	福祉住環境設備 インテリア	50	
授業の方法	講義			
テキスト/参考文献	住居環境学入門（章国社）プリント、スライド等 福祉住環境コーディネーター検定2級テキスト等			
評価の方法や基準	小テスト・学期末テスト・学年末テスト・レポート等にて評価。			
実務経験のある教員による授業科目の場合、右欄に○を入れ、実務経験と実務経験の活かし方を記載する				○
実務経験	建築設計事務所、設備会社住環境部にて二級建築士、福祉住環境コーディネーターとして勤務後、独立し個人事務所を経営。またNPO法人の理事長として福祉住環境整備やユニバーサルデザインのまちづくりに取り組む。			
実務経験の活かし方	障害者、高齢者の住環境整備、まちづくりに取り組んできた経験やノウハウを活用し、具体的な事例を示すなど学生の理解が深まるよう努めて指導を行っていく。			
履修上の注意事項	特になし			

令和6年度 シラバス

授業科目	ビジネスPC実習		単位/時間	31h
開講学科等	建築インテリア学科1年		担当教員	石元 優
授業の目的・テーマ	Excel 基本操作の学習			
授業の到達目標	サーティファイ Excel表計算処理技能認定試験 3級取得			
授業の計画	1	ガイダンス、Excelの基礎知識	26	模擬試験（模擬問題1）
	2	Wordの文字入力、Excelのデータ入力	27	サンプル問題
	3	データ入力、表の作成	28	サンプル問題
	4	表の作成、数式の入力	29	模擬問題2
	5	数式の入力（関数）、グラフの作成	30	模擬問題2
	6	印刷、ワークライ、複数シートの操作	31	模擬問題2
	7	データベース、テーブルスタイル、ワードアート、図形	32	
	8	認定試験について、練習問題	33	
	9	練習問題	34	
	10	練習問題	35	
	11	模擬試験	36	
	12	サンプル問題	37	
	13	模擬問題	38	
	14	練習問題1	39	
	15	練習問題2	40	
	16	練習問題3	41	
	17	練習問題4	42	
	18	練習問題5	43	
	19	練習問題6	44	
	20	練習問題7	45	
	21	練習問題8	46	
	22	練習問題9	47	
	23	練習問題10	48	
	24	練習問題11	49	
	25	模擬試験（模擬問題1）	50	
授業の方法	実習			
テキスト/参考文献	「よくわかるWord2010」「よくわかるExcel2010」 「サーティファイ Excel表計算処理技能認定試験 3級問題集」			
評価の方法や基準	出席 授業態度 提出物			
実務経験のある教員による授業科目の場合、右欄に○を入れ、実務経験と実務経験の活かし方を記載する				○
実務経験	ハウスメーカーにて設計担当として勤務。			
実務経験の活かし方	業界で養った実務技術を、学生に還元していく。また、業界での業務フローや担当の役割りなど、専門科目以外の部分でも知識を与えていく。			
履修上の注意事項	特になし			

令和6年度 シラバス

授業科目	修了制作	単位/時間	62 h	
開講学科等	建築インテリア学科1年	担当教員	石元 優	
授業の目的・テーマ	課題テーマに沿った調査、設計、模型の制作、プレゼンテーションまで一貫して行なう。			
授業の到達目標	プレゼンテーションパネルの制作（B1）。/プレゼンテーション模型の制作。/プレゼンテーションパースの制作。/プレゼンテーション（発表会）。/高知県建築デザインコンペ出品・入賞。			
授業の計画	1	手順解説・取り組み方法について	26	パネル提出（模型と並行して制作してもよい）
	2	作品事例①	27	模型制作
	3	作品事例②	28	〃
	4	作品事例③	29	〃
	5	身体寸法、スケール感について	30	全作品提出（パネル+模型）
	6	実測演習①	31	プレゼンテーション
	7	実測演習②	32	
	8	実測演習③	33	
	9	内部空間と外部空間について	34	
	10	木造建築課題発表	35	
	11	既存建築調査	36	
	12	計画敷地調査①	37	
	13	計画敷地調査②	38	
	14	調査書・企画書提出	39	
	15	企画書プレゼン	40	
	16	エスキス	41	
	17	〃	42	
	18	〃	43	
	19	〃	44	
	20	プラン確定	45	
	21	パネル制作	46	
	22	〃	47	
	23	〃	48	
	24	〃	49	
	25	〃	50	
授業の方法	演習			
テキスト/参考文献	建築空間計画、空間学辞典			
評価の方法や基準	企画力、構成力、表現力、にて総合評価する。 発表会におけるプレゼンテーションにて評価する。			
実務経験のある教員による授業科目の場合、右欄に○を入れ、実務経験と実務経験の活かし方を記載する			○	
実務経験	ハウスメーカーにて設計担当として勤務。			
実務経験の活かし方	業界で養った実務技術を、学生に還元していく。また、業界での業務フローや担当の役割りなど、専門科目以外の部分でも知識を与えていく。			
履修上の注意事項	特になし			